

**CASBEE-広島 (2010年ver.1)**  
 (仮称)緑井5丁目マンション

用途等で評価が不要となる項目については、自動的に網掛けが入ります  
 欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE広島 2009年版  
 ■ベース評価ソフト: CASBEE-NCb\_2008(v.3.2)

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
<b>Q 建築物の環境品質</b>								<b>3.0</b>
<b>Q1 室内環境</b>			<b>0.40</b>					<b>3.4</b>
<b>1 音環境</b>		<b>2.6</b>	0.15	<b>2.8</b>	1.00			<b>2.8</b>
<b>1.1 騒音</b>		<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	0.40			
1	暗騒音レベル	3.0	1.00	3.0	1.00			
	設備騒音対策		-		-			
<b>1.2 遮音</b>		<b>3.0</b>	0.40	<b>3.7</b>	0.40			
1	開口部遮音性能	3.0	1.00	3.0	0.30			
2	界壁遮音性能		-	4.0	0.30			
3	界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	4.0	0.20			
4	界床遮音性能(重量衝撃源)		-	4.0	0.20			
<b>1.3 吸音</b>		<b>1.0</b>	0.20	<b>1.0</b>	0.20			
<b>2 温熱環境</b>		<b>2.6</b>	0.35	<b>3.0</b>	1.00			<b>2.9</b>
<b>2.1 室温制御</b>		<b>3.0</b>	0.50	<b>3.0</b>	1.00			
1	室温設定	3.0	0.63	-	-			
	夏・冬・春・秋の室温設定		-		-			
3	外皮性能	3.0	0.38	3.0	1.00			
4	ゾーン別制御性		-		-			
	夏・冬・春・秋のゾーン別室温設定		-		-			
	夏・冬・春・秋のゾーン別室温設定		-		-			
	夏・冬・春・秋のゾーン別室温設定		-		-			
	夏・冬・春・秋のゾーン別室温設定		-		-			
<b>2.2 湿度制御</b>		<b>1.0</b>	0.20	-	-			
<b>2.3 空調方式</b>		<b>3.0</b>	0.30	-	-			
<b>3 光・視環境</b>		<b>2.3</b>	0.25	<b>4.3</b>	1.00			<b>4.1</b>
<b>3.1 屋光利用</b>		<b>1.8</b>	0.30	<b>4.6</b>	0.50			
1	屋光率	1.0	0.60	5.0	0.50			
2	方位別開口		-		0.30			
3	屋光利用設備	3.0	0.40	3.0	0.20			
<b>3.2 グレア対策</b>		<b>2.0</b>	0.30	<b>4.0</b>	0.50			
2	屋光制御	2.0	1.00	4.0	1.00			
<b>3.3 照度</b>		<b>3.0</b>	0.15	-	-			
1	照度	3.0	1.00	-	-			
<b>3.4 照明制御</b>		<b>3.0</b>	0.25	-	-			
<b>4 空気質環境</b>		<b>4.0</b>	0.25	<b>3.8</b>	1.00			<b>3.8</b>
<b>4.1 発生源対策</b>		<b>4.0</b>	0.60	<b>4.0</b>	0.63			
1	化学汚染物質	4.0	1.00	4.0	1.00			
	内部仕上材、造作家具、クロス接着材等はF☆☆☆☆を採用する。		-		-			
<b>4.2 換気</b>		<b>4.0</b>	0.40	<b>3.6</b>	0.38			
1	換気量	5.0	0.50	5.0	0.33			
2	自然換気性能		-	3.0	0.33			
3	取り入れ外気への配慮	3.0	0.50	3.0	0.33			
<b>4.3 運用管理</b>			-		-			
1	CO <sub>2</sub> の監視		-		-			
2	喫煙の制御		-		-			
<b>Q2 サービス性能</b>		-	<b>0.30</b>	-	-			<b>3.2</b>
<b>1 機能性</b>		<b>1.8</b>	0.40	<b>3.6</b>	1.00			<b>3.4</b>
<b>1.1 機能性・使いやすさ</b>		<b>1.0</b>	0.60	<b>4.0</b>	0.60			
1	広さ・収納性		-		-			
2	高度情報通信設備対応		-	4.0	1.00			
3	バリアフリー計画	1.0	1.00		-			
<b>1.2 心理性・快適性</b>		<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	0.40			
1	広さ感・景観		-	3.0	0.50			
2	リフレッシュスペース		-		-			
3	内装計画	3.0	1.00	3.0	0.50			
<b>1.3 維持管理</b>			-		-			
1	維持管理に配慮した設計		-		-			
2	維持管理用機能の確保		-		-			
<b>2 耐用性・信頼性</b>		<b>3.1</b>	0.31		-			<b>3.1</b>
<b>2.1 耐震・免震</b>		<b>3.0</b>	0.48		-			
1	耐震性	3.0	0.80		-			
2	免震・制振性能	3.0	0.20		-			
<b>2.2 部品・部材の耐用年数</b>		<b>3.4</b>	0.33		-			
1	躯体材料の耐用年数	4.0	0.23		-			
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	4.0	0.23		-			
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	3.0	0.09		-			
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	3.0	0.08		-			
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	3.0	0.15		-			
6	主要設備機器の更新必要間隔	3.0	0.23		-			

2.4 信頼性			3.2	0.19		-	
1	空調・換気設備		3.0	0.20		-	
2	給排水・衛生設備		3.0	0.20		-	
3	電気設備		3.0	0.20		-	
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20		-	
5	通信・情報設備	管理室にMDFを設け、複数の光ケーブルを採用する。	4.0	0.20		-	
3 対応性・更新性			2.8	0.29	3.1	1.00	3.0
3.1 空間のゆとり					3.2	0.50	
1	階高のゆとり	階高2.9m以上			4.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ				2.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり					3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			2.8	1.00		-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.17		-	
2	給排水管の更新性		2.0	0.17		-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.11		-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.11		-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.22		-	
6	バックアップスペース		3.0	0.22		-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	2.4
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30		-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40		-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30		-	3.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50		-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.1
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.4
1 建物の熱負荷抑制			3.0	0.40		-	3.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.20		-	3.0
2.1	自然エネルギーの直接利用		3.0	0.50		-	
2.2	自然エネルギーの変換利用		3.0	0.50		-	
3 設備システムの高効率化		ダウンライトにLEDを採用する。	4.0	0.40		-	4.0
4 効率的運用						-	-
4.1	モニタリング					-	
4.2	運用管理体制					-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	2.7
1 水資源保護			3.0	0.15		-	3.0
1.1	節水		3.0	0.40		-	
1.2	雨水利用・雑排水再利用		3.0	0.60		-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	1.00		-	
2	雑排水再利用システム導入の有無					-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.5	0.63		-	2.5
2.1	材料使用量の削減		2.0	0.07		-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.25		-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.21		-	
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用		1.0	0.21		-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		-	-		-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み		3.0	0.25		-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.2	0.22		-	3.2
3.1	有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.32		-	
3.2	フロン・ハロンの回避		3.3	0.68		-	
1	消火剤	ノンフロン消火剤を採用する。	4.0	0.33		-	
2	断熱材		3.0	0.33		-	
3	冷媒		3.0	0.33		-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.1
1 地球温暖化への配慮		CO2排出量を低減する。	4.4	0.33		-	4.4
2 地域環境への配慮			2.5	0.33		-	2.5
2.1	大気汚染防止		3.0	0.25		-	
2.2	温熱環境悪化の改善		2.0	0.50		-	
2.3	地域インフラへの負荷抑制		3.0	0.25		-	
1	雨水排水負荷低減		-	-		-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.33		-	
3	交通負荷抑制	南北の道路2箇所を利用し、敷地の出入りを分散させる。	4.0	0.33		-	
4	廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.33		-	
3 周辺環境への配慮			2.5	0.33		-	2.5
3.1	騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40		-	
1	騒音		3.0	1.00		-	
2	振動		-	-		-	
3	悪臭		-	-		-	
3.2	風害、日照阻害の抑制		1.6	0.40		-	
1	風害の抑制		1.0	0.70		-	
2	日照阻害の抑制		3.0	0.30		-	
3.3	光害の抑制		3.7	0.20		-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	周辺環境に適した明かりとする。	4.0	0.70		-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30		-	